



vol. **33**

2015 Summer

通信 Joyama News

福岡教育大学広報誌  
Fukuoka University of Education Campus Magazine

特集1

# 大学改革

—福岡教育大学が変わります—

特集2

# 世界で活躍する 人材に!!



豊かな教養と高い専門性をつちかう

**福岡教育大学**



vol.

33

CONTENTS

02 特集1

大学改革—福岡教育大学が変わります—

06 特集2

世界で活躍する人材に!!

08 福教大NEWS

14 授業紹介

保健体育講座(市丸直人教授)  
特別支援教育講座(一木薫准教授)

16 研究室・講座紹介

教職実践講座

17 サークル紹介

女子ハンドボール部  
国際交流サークル「KIZUNA」

18 社会連携 連載第11回

20 福教大卒OB・OG

宗像市立赤間小学校教諭  
齊藤 萌さん  
福岡教育大学附属小倉中学校教諭  
兼安 章子さん

22 TOPICS

教材開発スタジオが完成しました  
表紙モデルの福教大生☆

23 キャンパスからの便り





# 大学改革

— 福岡教育大学が変わります —

本学は、平成25年度に公表したミッションにおいて、義務教育諸学校の教員養成に関する広域の拠点大学としての役割を担うことを掲げました。ミッションの実現に向けて、平成28年度より学部改組、カリキュラム改革、大学院改革を行い、教員養成の機能を強化し、格段に高い教員就職率を実現しようとしています。

今号では、入試改革の概要、本格的に始動した英語習得院、そして初等教育教員養成課程のカリキュラム改革と教職教育院について紹介します。

## 入試改革の概要

本学は、九州各県の学校教育を担うことができる資質・能力の高い小学校教員・中学校教員・特別支援学校教員等を養成するために、平成28年度から教育学部を改組し、初等教育教員養成課程・中等教育教員養成課程・特別支援教育教員養成課程での募集人員及び入学者選抜方法の変更を行う予定です。また、共生社会教育課程・環境教育課程・芸術課程については、平成28年度から学生募集を停止します。

初等教育教員養成課程は、選修制を廃止し、特定教科に係る授業科目に比重を置いた教育課程を見直し、小学校教員として、子どもの主体的・協働的な学びをはじめとした各教科・領域の指導、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動での指導、学級経営、生徒指導を行うために必要な基礎的・基盤的な資質・能力を全般的に確実に身につけることを目指した課程に改めます。

そのため、選修毎に行っていた募集を改め、初等教育教員養成課程全体で一括募集し、入試を実施します。募集人員も316人から370名に増員します。また、九州・沖縄各県の高校を卒業し、本学を経て各県のいずれかの地域で小学校教員として勤務したい生徒を対象とした「地域創生推薦入試(募集人員:43名)」を全国で初めて実施するとともに、「推薦入試Ⅱ(募集人員:97名)」も導入し、推薦入試の全体の募集人員を拡大します。

中等教育教員養成課程は、特に中学校教員の養成を重視して、担当教科や総合的な学習の時間及び特別活動での指導、学級経営、生徒指導を行うために必要な基礎的・基盤的な資質・能力を高めることを目指しています。

そのため、これまで同様に各専攻別に募集しますが、理科(25名→35名)・音楽(8名→15名)・美術(8名→10名)・書道(6名→10名)の専攻で募集人員を増員します。また、個別学力検査等で、教員として必要な資質・能力の基礎を評価するために、各専攻に共通の小論文を新たに課します。

特別支援教育教員養成課程は、特別支援学校小学部の教員や特別支援学校中学部・高等部の教員として児童生徒の発達に応じた教育活動を行うために必要な基礎的・基盤的な資質・能力を高めることを目指した課程に改めます。

そのため、新たに入学者選抜段階から初等教育部(特別支援学校の小学部の教員を目指して、特別支援学校教諭免許状及び小学校教諭免許状を取得)、中等教育部(特別支援学校の中学部又は高等部の教員を目指して、特別支援学校教諭免許状及び中学校・高等学校教諭免許状を取得)に分け、初等教育部40名・中等教育部20名で募集を行います。

なお、入試改革については、募集人員は国の予算編成に係る事項であるため、現時点では本学が予定するものであり、今後、変更することがあります。また、入学者選抜方法等も予定のものです。

詳細については、「平成28年度福岡教育大学入学者選抜要項」(平成27年7月公表予定)、「平成28年度学生募集要項」(推薦入試は9月、一般入試は12月公表予定)等でお知らせする予定です。

# 英語習得院が本格スタート

英語習得院創設の趣旨については、本誌第31号の特集「学生の英語力向上のための新たな取り組み」に記載のとおりであり、昨年度はその趣旨に沿った試行的な講座や事業を実施しましたが、その後学内関係規程を制定するとともに専用教室やスタッフルーム等を整備し、平成27年4月1日を以て正式に発足しました。

英語習得院(English Learning Institute以下、ELIと略称します。)設置の目的は「学校現場で実践可能な英語コミュニケーション能力の習得や留学に必要な英語力の向上を目指す全学共通の実践的な英語教育を担い、学生の英語力向上に向けた取り組みを推進すること及び現職義務教育諸学校教員の英語力の向上に寄与すること」(英語習得院規程第2条)であり、①英語で「聴く」「話す」技能の基礎的運用能力の習得や協定留学等に必要英語力の習得を目指すELI講座、②クアラルンプールでの短期研修、③教員採用試験英会話実技対策特別講座等の事業を行うとともに、留学や海外でのボランティア、インターンシップ等、学生の国際交流や国際貢献に関する情報の提供やアドバイスを行います。

ELI講座は課外の講座ですが、初等教育教員養成課程の本年度入学生を中心に募集を行った結果、下表のとおり多くの意欲的な学部生、院生及び大学職員から受講希望がありました。同講座

では、プレACEMENTテストにより受講者を4つのレベルに分け、一人ひとりの習熟度に合わせた少人数(20人以下)での指導を行い、一定の受講実績と学修成果を挙げた者には修了証書(サーティフィケート)を授与することとしています。今年度は各レベルとも1コマ50分の講座を週2回、前・後期を通して年間48回開講する計画の下に、週74コマの講座を開講し、本学の専任教員1名と非常勤のELI講師10名でその指導に当たっています。なお、この講座については、夏季及び春季に、それぞれ前・後期の講座の集中補講を行う予定です。

また、「現職義務教育諸学校教員の英語力の向上」への寄与については、今年度のELI講座の開講時間帯が12時45分～18時50分となっているため、現職教員に対してどのような対応が可能であるのか、今後具体的な受講の条件等について関係の教育委員会と協議を行うこととしています。

なお、クアラルンプールでの短期研修については、8月中旬から9月上旬にかけて3週間程度の日程で行う予定ですが、今年度は語学研修だけでなく、現地の日系企業等でのインターンシッププログラムも設けることとしています。

理事(国際交流・社会連携担当) 檜崎 洋二郎



レベル	受講者数	学部				修士1年	修士2年	特別聴講学生	職員
		1年	2年	3年	4年				
Elementary 1 (初級1)	100人	56	2	10	18	3	8		3
Elementary 2 (初級2)	142人	95	11	20	12	1	2		1
Intermediate 1 (中級1)	107人	57	13	16	15	3	3		
Intermediate 2 (中級2)	26人	6	5	6	3	1	2	1	2
合計	375人	214	31	52	48	8	15	1	6



## オープニングセレモニーを開催

平成27年6月26日にはオープニングセレモニーを開催し、文部科学省初等中等教育局国際教育課齋藤潔主任学校教育官(国際教育担当)、福岡県教育委員会友野晃理事、宗像市及び福津市から担当の指導主事のご列席をいただきました。

セレモニーでは、寺尾学長の挨拶の後、齋藤主任学校教育官から英語習得院へ期待を寄せる激励、友野理事から英語習得院開設に伴う一層の大学と教育委員会との連携強化についてメッセージをいただきました。テープカットに引き続き、齋藤主任学校教育官

から今後の英語教育の改善・充実方策について、英語教育改革の背景、グローバル化の進展の中での英語力の重要性、これまでの英語教育の改革を経た更なる改善、必要な改革について国が示す教育目標・内容の改善等についての施策の説明を分かり易く詳細に講演いただき、多数の本学学生及び教職員が参加しました。

講演後には授業視察を行い、齋藤主任学校教育官の熱心に授業の様子を見られている姿が印象的でした。



テープカットの様子



講演する齋藤主任学校教育官

## 初等教育教員養成課程の カリキュラム改革と教職教育院

平成28年度より、初等教育教員養成課程ではこれまでの選修制(ピーク制)に基づくカリキュラムを改め、小学校教員としての総合力の育成に集中(124単位)いたします。小学校全教科・領域の指導に関する科目や学級経営や生徒指導に関する科目に加えて、いじめ、不登校、保護者対応等の小学校の現代的諸課題に関する科目、及びICT活用や能動的学習等これからの子どもたちのための「新しい学び」を創出する科目等により、「小学校教育のスペシャリスト」を育成いたします。

また、本課程の新たな教育組織である「教職教育院」では、大学での学習と学校支援ボランティア活動等の学校体験をつないで省察し、仲間や先輩と協同的に学び続ける場を授業以外に設け、多様な学びの体験を支援します。また、入学後に編成する20~30名程度のクラス担任・副担任を中心に、4年間にわたって授業科目の履修や修学上の相談にきめ細かく応じるとともに、学生ひとり一人の教職キャリア形成を支援します。加えて、英語習得院での英会話力の向上や海外短期研修の支援も行います。

なお、平成26年度に行った「本学での学習成果分析のための卒業(修了)生についてのアンケート調査」によれば、教育現場の校長から寄せられた意見・要望として、「在学中に現場をできるだけ多く体験し学べるようなカリキュラムやプログラムが必要である」とか「社会人としてのマナーやコミュニケーション力を高めてほしい」など、学校現場での経験を求める内容や社会人基礎力を求める内容の指摘が多くみられました。これらの学校現場や教員養成に対する社会の要請をしっかりと受け止め、本学の今回のカリキュラム改革や教職教育院の指導プログラムを、そういった要請に十分に応える内容に整えてまいります。

副学長(教育組織・カリキュラム改革担当) 池田 修





# 世界で活躍する 人材に！！



## 「トビタテ!留学JAPAN日本代表プログラム」第2期生と 学長との対談が行われました

平成27年3月16日、学長室にて、「平成27年度前期(第2期)官民協働海外留学支援制度～トビタテ!留学JAPAN日本代表プログラム～」に採用された本学学生2名(大学院教育学研究科教育科学専攻学校心理コース2年石丸玲子さん、初等教育教員養成課程美術選修2年西本きよらさん)と学長との対談が行われ、学長から激励の言葉が送られました。

本プログラムは、意欲・能力のある全ての日本の若者が海外留学へチャレンジする機運を醸成するもので、国家プロジェクトとして平成26年度から開始されました。多様な活動の認定や充実した奨学金等、手厚い支援を特長としています。

派遣学生は官民協働でグローバル人材コミュニティを作り、コミュニティを通じて、世界を視野に入れて活躍できる人材として育成されます。帰国後はエヴァンジェリスト(伝道師)として海外体験の魅力を後輩に伝えていくことが期待されています。

今回の第2期生には全国から784名の学生が応募し、256名が採用され、石丸さんは「自然科学系、複合・融合系人材コース」(全119名)、西本さんは「多様性人材コース」(全76名)の一員として派遣されています。

### — 今回のプロジェクトに応募したきっかけ、プロジェクトへの思いを聞かせてください。

**西本さん** 大学の講義でカンボジアは戦争の影響により、文化、美術に関する文化がなくなってしまったという説明を聞き、ぜひ現状を見てみたいと思いました。昨年、地雷撤去キャンペーン団体のスタディーツアーに参加し、さらにカンボジア領事館からの派遣制度でカンボジアを訪れ、美術が人々の心、生活、社会に役立つものであるということを知られました。そこで是非、カンボジアという地で美術教育を使った支援の在り方を学びたいと考え、自分のやりたいことをやりたい国で挑戦できる本プロジェクトに応募しました。留学先では、美術教育を通じた支援のあり方を学びたいと考えています。

**石丸さん** 学部時代にフランスに興味を持ち、大学院での研究テーマ「移動する子ども達」を活かすことができると考えて説明会に参加しました。現地の日本語補習校において、自分が生まれた国とは違う文化や言語を使う国で生活する子ども達の学習環境をより良くするために、ICTを活用し、子どもたちの学びをより効率化できるようにすることが今回の目的です。

**学 長** 今回の留学が帰国後の教員という仕事にどのように活かされると考えていますか。

**西本さん** カンボジアでの美術教育を通じて、生きるための教育とはどういうものか、大切な教育とは何かということを知り、将来教員として子どもたちに伝えていきたいと考えています。

**石丸さん** ICTの技術を活用し、マイノリティーを支える教育を実現したいと考えています。

**学 長** 今回の留学経験を将来ぜひ教育現場で役立てていただきたいと思います。留学先での経験を通して更なる学習の深まりを期待しています。なにがとも、変化することは楽しいことであり、失敗しても次の方針を考えればいいのです。くれぐれも身体に留意し、様々なことに積極的に挑戦して充実した1年を送ってください。応援しています。

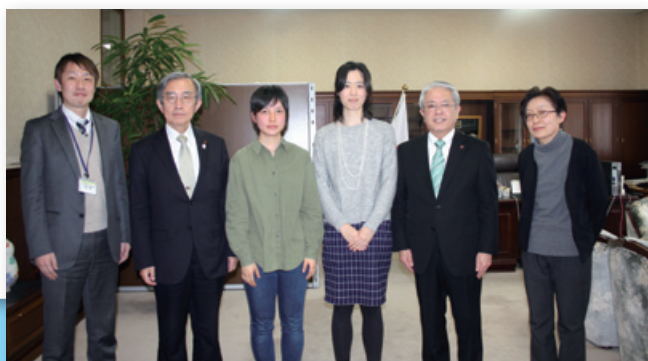


対談の様子 (左)西本きよらさん  
(右)石丸 玲子さん



対談の様子 寺尾学長

対談後の記念撮影





平成27年4月より現地に赴き、自身が計画した活動を開始している石丸さんと西本さんに、それぞれの現地での活動の様子をレポートしていただきました!

## 石丸 玲子さん

自然科学系、複合・融合人材コース

France フランス

レンヌ日本語補習校では低学年のクラスの補助を受け持つことになりました。子どもたちとのふれあいを通して現場で何が求められているか、問題解決のためにどういったアプローチが効果的かを日々模索しています。実際の現場は留学前に想像していたものと異なる部分もあり戸惑うことも多いですが、担任の先生方のサポートのおかげで幅広い視点で児童を捉えられるようになりました。

5月にはフランス留学中のトビタテ生によるパリ訪問中の下村

文部科学省大臣を囲む会に参加しました。大臣の前で留学計画をプレゼンし今後の意気込みを伝えるとともに、一期生の留学報告を聞くこともでき、とても充実した機会となりました。奨学金だけでなく、トビタテ生とのつながりを通じた切磋琢磨できる環境が、この留学プログラムの大きな魅力のひとつだと思っています。こうした環境を最大限活用し、後悔のないよう色々なことにチャレンジしたいです。



パリ訪問中の下村文部科学大臣を囲むトビタテ1期生、2期生



レンヌ日本語補習校の授業は現地の公立中学校の教室を借りて行われます



幼稚部にて、七夕の飾りつけ

## 西本 きよらさん

多様性人材コース

Cambodia カンボジア

こちらに来てからの2ヶ月、多くの出会いと体験がありました。特に印象的だったのは、非常に貧しい村の小学校で、子どもたちが普段触っている土を使って絵を描く授業をおこなった経験です。子どもたちはみな絵を描いたことがなかったのに、驚くほどのセンスを持っています。初めて触るテラコッタ粘土の感触や色の美しさに子どもたちも現地の先生もキラキラな眼差しで学びます。

この村に出会ったことで、環境や自然と共存できるような美術教育を研究したいと思うようになりました。子どもたちは困難な環境下でも元気で明るく、何かを学びたいという欲が大変強いです。学ぶことは生きる上で大きな力を持っていて、学ぶ場所と学び合う仲間と学びを表現・応用する「学校」という存在が、どれだけ人々に重要か分かりました。

様々なきっかけが重なり、私は今カンボジアという「場所」でトビタテ!留学JAPANという制度を「活用して」、美術教育や美術でできる支援のあり方を研究する「生きる意味につながる学び」に至りました。残りの留学期間も、今まで出会った人たちに恩返しができるよう学んできたいと思います。

※在福岡カンボジア王国名誉領事館のホームページに、西本さんの留学レポートが掲載されています。

「きよらのカンボジア留学体験記」 URL: <http://www.fukuoka-cambodia.jp/kiyora/>



子どもたちのセンスに毎日驚きます!



お寺の孤児院にて出前図工授業



路地で出会った女性や子どもたちとお絵描きタイム



土絵の具をみんなで作って友達を描きました

自分のやりたいことを見つけ、周囲への感謝とあきらめずに挑戦する気持ちを忘れない石丸さんと西本さん。留学先でも充実した生活を送られていることが現地のレポートから伝わってきます。

6月26日には第3期生の結果発表があり、本学から門田三菜子さん(中等教育教員養成課程音楽専攻4年)が採用されました。門田さんは、多様性人材コースで採用され、平成27年10月から1年間フランスに留学する予定です。

福教大生の今後のさらなる飛躍が非常に楽しみです。



# 第1回教職イベント 「福岡教育大学の使命と役割」を 開催しました

平成27年4月23日に第1回教職イベント「福岡教育大学の使命と役割」が開催され、教員を目指す学生及び保護者の方々、約90名が参加しました。

教職イベントは、今年度から始まった新しい企画であり、教員を目指すモチベーションや教員採用試験に臨む姿勢の醸成を図るとともに教職キャリアを高めるために年間を通して実施される取組です。

第1回目は、「福岡教育大学の使命と役割」と題して、はじめに寺尾学長から「教員養成大学としての使命とは」、続いて坂田後援会長から「保護者が願うこと」、永富参与から「教師になるために、これからやるべきこと」についての講話がありました。

参加した学生らはメモをとり、熱心に耳を傾けていました。

終了後のアンケートでは「自分で考え、行動することが大切だと思った」「自分で何事にもチャレンジしていきたい」「教員になるために今、自分がすべきことがわかった」などの感想が寄せられ、これからの大学生活を充実させるための有意義なイベントとなりました。



教師を目指している学生のみならず、「教職イベント」に参加して教職キャリアを高めませんか

## 平成27年度福岡教育大学「教職イベント」年間計画

福岡教育大学では、年間を通して様々な「教職イベント」の開催を計画しています。



内容	開催日時	会場	対象学年
<b>第3回:先輩教師を囲んで</b> 講話・交流会「教師の魅力について」 ○福岡教育大学の先輩教師を招聘し、教育現場での実践の苦労や喜びについて学ぶ。 ○小・中の校種別での先輩との交流を通して、教師としての姿勢や在り方について学ぶ。	8月8日(土) 10:00~12:00	101教室	全学年 保護者
<b>第4回:教育現場で学ぶ</b> ①参加者の事前学習会 ②小学校での「児童との交流」と「授業参観」 ③中学校での「生徒との交流」と「授業参観」 ○参加者のための事前学習会を開催し、学校訪問の意義やマナー等について学ぶ。 ○小・中学校での児童生徒との交流を通して、子どもの現状や学校現場の様子について学ぶ。 ○小・中学校での授業を参観し、授業の在り方や子ども対応などについて学ぶ。	①11月12日(木)予定 ②③11月19日(木)予定	①未定 ②③遠賀町の小・中学校	全学年
<b>第5回:教採試験を終えて</b> 教採体験講話と質疑「教員採用試験への心構え」 ○教採試験を体験した4年生から、「教員採用試験対策への心構え」について学ぶ。 ○教採に関わる疑問や悩みなどについて質疑を行う。	11月22日(日)予定	大I教室	全学年 保護者
<b>第6回:教採パネルディスカッション</b> 「現役一発合格を勝ち取るために」 ○教員採用試験に合格した4年生に自らの体験を発表させ、教職を目指すためのモチベーションを高め、「教員採用試験対策の在り方」について学ぶ。	1月予定	未定	全学年 保護者
<b>第7回:春休み教授学習会</b> 講話「本学の教採情報と教採試験に向けて」 ○データを提示して本学の現状について学ぶとともに、教採試験に向けての心構えをもつ。 ○教師を目指すためのモチベーションを高める。	2月予定	未定	全学年 保護者

- \*各イベントの詳細な内容等については、そのつど掲示板やチラシ等で案内しますのでご覧ください。
- \*各イベントへの参加希望者は、所定の申し込み用紙を事前にキャリア支援センターに提出してください。
- \*各イベントの開催予定日時・会場等については、変更する場合がありますのでご了承ください。



## 赤池文部科学大臣政務官が 福岡教育大学を視察されました

平成27年4月20日、赤池文部科学大臣政務官が福岡教育大学を視察されました。

はじめに、寺尾学長をはじめ役員を紹介の後、本学の学部改組、及び大学院改革について、受験生の教員になりたいという気持ちを重視した初等・中等・特別支援教育教員養成課程における課程としての教育の充実、教職大学院の拡充を中心に懇談がなされました。更に、話題は、現職教員の研修における教育大学としての役割や、今後の道德教育、また、入学式・卒業式における国旗掲揚及び国歌斉唱の実施等に及び、有意義な懇談となりました。

その後、教職大学院において、学校の教員に求められる基本的なマナーについて事例研究を通して検討するという、実務家教員による授業を視察されました。教職大学院では、学生がスーツ姿で講義を受講していることに感心されていました。その他に本年度から新たに開設した「英語習得院」、昨秋リニューアルオープンした附属図書館も視察されました。

なお、この度の赤池政務官の視察には、文部科学省より茂里初等中等教育局教職員課長、森高等教育局大学振興課教員養成企画室室長補佐、黒澤高等教育局法人支援課課長補佐、若林文部科学大臣政務官秘書官が同行されました。



寺尾学長との懇談



英語習得院の視察



教職大学院の視察



図書館の視察

## 本学附属久留米小学校が表彰を受けました

本学附属久留米小学校が、特定非営利活動法人日本語検定委員会の平成26年度第2回検定において、団体部門の最高賞“文部科学大臣賞”を受賞し、賞状と楯が贈られました。これは、全国約1200の団体から4団体のみに与えられた賞で誠に名誉なことです。毎年3年生以上が全員受検していましたが、最高賞を受賞したのは初めてのことで、国語担当の教諭が中心となって受検指導を行い、快挙を成し遂げました。

また同校は、「平成26年度ソニー子ども科学教育プログラム」においても、理科担当の教諭が応募した論文について、「奨励校」として学校表彰を受けました。報告した授業実践は、目指す子ども像とねらいに迫る手立て、授業実践の分析等、研究の論理的な道筋がしっかりした取り組みであるとして評価を得ました。



## 公益財団法人宗像ユリックスと 連携・協力に関する協定を締結しました

平成27年4月15日(水)に、「公益財団法人宗像ユリックスと連携・協力に関する協定締結式」を執り行いました。

この連携協定は、本学が長年培ってきた教育・研究の成果を、宗像ユリックス主催のアウトリーチ活動等の各種事業への参加等により、広く学内外へ発信することが可能となり、近隣住民の文化・芸術活動の推進の一助となるべく、相互に連携・協力することを目的としています。

宗像ユリックス・松永館長の、「これまで、主に音楽関係で連携事業を実施し、文化・芸術の持つ感動や夢を市民に手渡してきた。今後は、音楽以外の分野にも手を広げていきたい。」との挨拶に続いて、立会人として出席いただいた宗像市・谷井市長から、「『いきいき出前コンサート』等の事業を通じて、宗像市の文化・芸術がさらに発展するよう、宗像市としても協定締結に大いに期待している。」と激励の言葉をいただきました。

この協定締結を契機として、これまで以上に「地域の拠点」「知識の拠点」として発展していきたいと考えています。



右から 寺尾学長、宗像ユリックス松永館長、宗像市谷井市長

## 本学学生3名が 「宗像国際環境100人会議」に参加しました

「宗像国際環境100人会議」は、古来国際交流の拠点として栄えた福岡県宗像市において、地球環境保全と次世代の人材育成を目的として、平成26年度より開催されているものです。

第2回目となる今年度は、「海と生きる～海と森との共生～」をメインテーマとして、5月22日(金)～24日(日)の日程で開催され、本学からは3名の学生が参加しました。

会議には、自然科学者、社会科学者、人文科学者、国際機関関係者、企業家、金融機関関係者、国や自治体関係者、市民活動家、文化人など、国内外から地球環境保全の為に活躍するリーダーが集まり、海と森とが共生するための環境再生について熱い議論が交わされました。



参加者集合写真

### 参加学生から 環境教育課程環境教育コース3年 清水 美樹さん

私は、環境問題についての知識と自分の英語力を活かして、様々な人と出会い、多様な考え方を身につけたいと思い、この会議に参加しました。会議には、様々な年代、職業、国籍、学部の人がいました。私がこの会議で学んだことは、環境問題の解決には科学的な側面だけでなく、経済的な側面、そして国際的な側面からも考えなければならないということです。私は、環境教育課程ということもあり、環境問題について、そのメカニズムや解決策を科学的な側面から考えるばかりでした。しかし今回、環境問題を解決するためには国家予算における費用も考えなければならないし、先進国や発展途上国という枠を超えた世界的な協力が必要になるということを改めて考えることができました。今回の会議で、活力あふれる多くの方々との出会い刺激を受けました。今後は、この経験を活かしてひとつの問題について様々な人と積極的に話し合い、ものごとを多様な側面から考えられるようにしていきたいです。



# 全学一斉の地震総合訓練を実施しました

平成27年6月4日(木)に全学一斉の地震総合訓練を実施しました。

本訓練は今年で5回目を迎え、学生からの安否確認受信件数の向上(55%以上)、迅速な避難完了(20分以内)及び消火器を使用した初期消火訓練体験(30名以上)を重点訓練事項にかかげて臨みました。

当日は梅雨入りしたにもかかわらず快晴で暑い日となりましたが、総勢約1000名の学生、教職員等が参加しました。参加者は開始と同時に身の安全の確保、避難場所への誘導、避難場所での人数確認・報告などの一連の訓練を緊張感を持って行いました。

訓練終了にあたって宗像消防署より、「昨年、大学周辺地区で火事があり、貴学の学生の初期消火活動によって、大惨事になるのを未然に防ぐことができた。そのように何かあった時に勇気を持って行動できるよう今後も緊張感を持って訓練に参加して欲しい。」と講評していただき、最後に寺尾学長より「重点訓練事項にかかげた項目は、皆さんのおかげで達成できた。何事も教えてもらっていないことはできないので、このような訓練に参加することで学んで欲しい。」との総括がありました。



消火器を使用した初期消火訓練



総括する寺尾学長

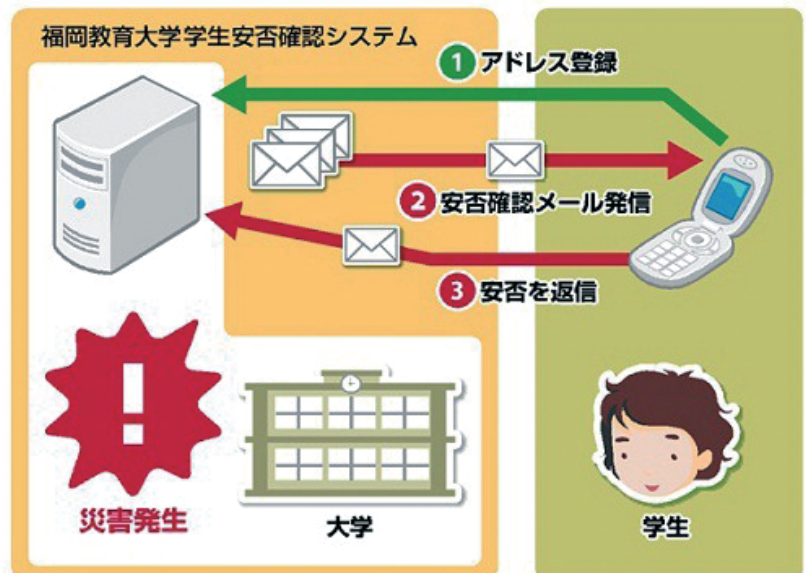
## 学生安否確認発信訓練を実施

本学では、平成26年度より、災害発生時等における学生の安否確認を行う手段の一つとして、事前に学生が大学に登録したメールアドレスに安否確認のメールを配信する「学生安否確認システム」を整備し、地震総合訓練の際に配信訓練を行っています。

今年度は、5月14日(木)と6月4日(木)の2回に渡り、図の要領にて大学から「安否確認メール」を学生の皆さんが登録したメールアドレスに配信しました。



## 福岡教育大学「学生安否確認システム」の概要



<p><b>① アドレス登録</b></p>	<p>安否確認システムにメールアドレスを登録することで、大学からの安否確認メールを携帯電話やPCで受信することができます。</p>
<p><b>②-③ 安否確認</b></p>	<p>大規模災害発生時に、大学から安否確認メールを送信しますので、安否状況を回答してください。</p>

# 「教育週間2015」関連事業 「若手教員による研究成果発表会」を開催しました

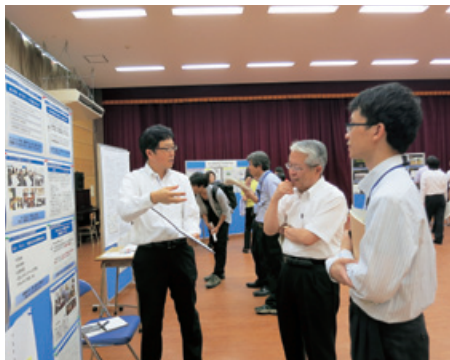
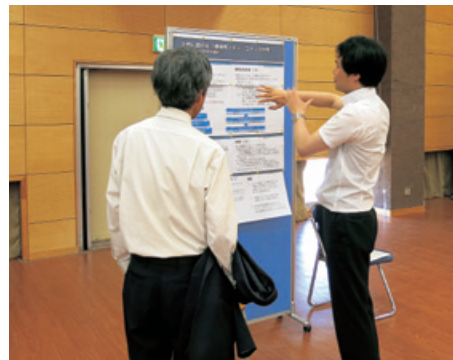
平成27年6月4日(木)に学生会館大集会室において「若手教員による研究成果発表会」を開催しました。

本発表会は、平成26年度大学教員活動評価で高い評価を受け、学長裁量経費から研究費の支援を受けた優秀な若手教員9名がその研究成果を発表するという趣旨で企画されたものです。

勝又隆教授(国語教育講座)、沼尻利通准教授(国語教育講座)、岩田耕司准教授(数学教育講座)、山崎聖司教授(理科教育講座)、梅野貴俊准教授(技術教育講座)、加藤隆之准教授(美術教育講座)、山中和佳子准教授(音楽教育講座)、河内祥子准教授(学校教育講座)、生田淳一准教授(教育心理学講座)の9名が、それぞれの研究テーマについてポスター発表形式による発表を行いました。

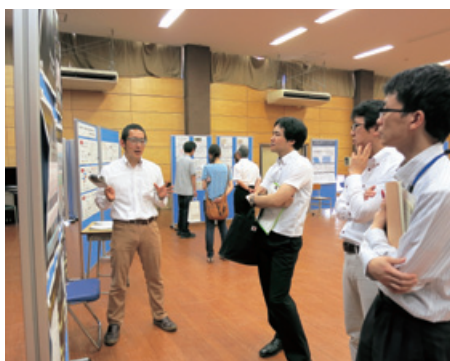
発表会には、64名の学生・教職員が参加し、教員に質問をしたり、その他研究内容について話をしたりするなど、ポスター発表を通じて、教員と参加者が交流する姿が見られ、参加者からも「普段話をする機会があまりない先生とも話ができてよかった。」「このような機会があればまた参加したい。」などの感想があり、好評を得ました。

今年度も、優秀な若手教員に対して研究支援を行い、来年度、その研究成果発表会を行うこととしています。



写真は、すべてポスター発表の様子です。

今年度のポスター発表形式では、発表者と参加者の距離がとても近かったことから、気軽に質問ができ、参加者たちは、それぞれの研究についてより深い理解を得ることができました。





# 活躍する福教大生を紹介します！

福岡教育大学の学生は、それぞれの夢に向かって学業に励む一方で、課外活動など様々な分野でも活躍しています。

## 九州学生陸上競技対抗選手権大会で好成績 >> 陸上競技部

5月15日～17日に鹿児島県立鴨池陸上競技場(鹿児島県鹿児島市)で「第85回九州学生陸上競技対抗選手権大会」が開催され、濱野未希さん(生涯スポーツ芸術課程4年)が、女子800mで優勝し、見事3連覇を果たしました。また、高野陸さん(初等教育教員養成課程4年)が、男子400mで2位と好成績をおさめました。



女子800m表彰式  
(中央が高野さん)

多くの方々に支えられ、3連覇という目標を達成することができました。これからも感謝の気持ちを忘れずに競技と向き合いたいと思います。

目標として掲げていた優勝を達成することはできませんでしたが、この悔しさを今後の課題として頑張ります。



男子400m表彰式  
(左が高野さん)

## 第30回記念西日本女子学生剣道大会で優勝 >> 女子剣道部

5月23日・24日に福岡市民体育館(福岡市)において「第30回記念西日本女子学生剣道大会」が開催されました。本学女子剣道部は、チーム一丸となって戦った結果、団体戦で15年ぶりの優勝という快挙を成し遂げました。この大会は、参加校数が99チームという、学生剣道界において国内最大の大会であり、決勝戦では大阪体育大学と対戦し、勝利を得ました。



大会を終えて

私達女子剣道部は一戦一戦を全力で戦い、皆が「勝つ」という気持ちで頑張ったからこそ優勝できたと思います。日頃の厳しい修練の成果だと思います。支えてくださっているたくさんの方に恩返しができるよう、これからも日々稽古に精進していきます。【女子剣道部主将】

## フライングディスク競技(アルティメット)の世界大会に出場 >> 赤澤加奈さん

7月12日(日)よりイギリス・ロンドンで開催されるフライングディスク競技(アルティメット)の世界大会「WFDF2015世界U-23アルティメット選手権大会」に、本学の赤澤加奈さん(初等教育教員養成課程3年)が日本代表選手(ウイメン部門)として出場します。

大会への出場に際して、6月18日(木)に学長室において課外活動支援金授与式が行われ、寺尾学長より激励の言葉が贈られるとともに支援金が授与されました。

赤澤さんは、本学公認サークルの「球ちゃん(アルティメット)」に所属し、日々活動しています。平成26年11月に地区対抗戦の九州選抜メンバーに選ばれ、出場選手の中で最高ポイントを獲得する成果をあげ、日本代表選手に選出されました。世界大会では、日本代表チームの主力選手としての活躍が大いに期待されます。



前列左から笹原顧問教員、赤澤さん、寺尾学長

支援してくださる方々への感謝の気持ちを忘れず、世界大会では、メダルが獲得できるように精一杯頑張りたいと思います。

## 全日本学生柔道優勝大会女子3人制で3位入賞 >> 女子柔道部

6月27日(土)から28日(日)まで、東京・日本武道館で開催された全日本学生柔道優勝大会に出場した福岡教育大学柔道部は、女子3人制で初の3位入賞を果たしました。今大会では、先鋒を津本春菜さん(初等教育教員養成課程4年)、中堅を田坂冴さん(初等教育教員養成課程3年)、大将を澤田彩華さん(中等教育教員養成課程1年)が務め、堂々と4試合を戦い抜きました。

1年生の頃は、このような結果を出す日が来るとは想像していませんでした。前が見えなくても、毎日を積み重ねてきたことが今に繋がっていて、あの頃の経験は自分の中で大きな糧となり、私のやってきたことは間違っていなかったと感じることができました。【津本春菜さん】



左から津本さん、松長さん、澤田さん、田坂さん





授業紹介

# バットスポーツ (ソフトボール)

保健体育講座 教授 市丸 直人



教員プロフィール  
市丸 直人  
(いちまる なおと)

本学修士課程(保健体育)修了。専門は生理人類学、運動生理学。2013年、韓国国立江原大学校より、「東アジアの小中学生の体格と体力の比較」の学位論文(韓国語)にて体育学博士の学位を取得。1987年、体育研究センター(現:健康科学センター)着任。本学野球部監督。



## 初等体育・中等保体専攻学生の 専門の授業です

この授業は、初等教育教員養成課程保健体育選修、中等教育教員養成課程保健体育専攻学生に対する教科専門の授業です。当該専攻学生の選択必修科目で、他専攻学生も受講は可能ですが、実際には体育専攻学生のための25名で実施しています。

型ゲーム」の授業が現場で展開されていますが、その経験の少なさからか、特に小学校女性教諭による授業の困難さが表面化しています。そこで、本授業では基本的な技能を習得することは無論、ソフトボールのゲームの進め方を中心に実施し、さまざまな「ベースボール型ゲーム」の展開に応用できるような内容に努めています。



## バットスポーツとは

文字通りで、野球、ソフトボールに限られませんが、野球、特に硬式野球が全国高等学校総合体育大会の種目から除外されていること、小中高の体育・保健体育に関する学習指導要領等に記載がないことなどから、ソフトボールに限定して実施しています。

## ベースボール型ゲームについて

最新の学習指導要領で、小中高を通し、ボールゲーム・球技として、「ゴール型ゲーム」、「ネット型ゲーム」とともに重要種目の1つとして取り上げられました。キックベースボール、Tボールゲームなどを含めた「ベースボール





# 特別支援教育概論

特別支援教育講座 准教授 一木 薫



教員プロフィール

一木 薫  
(いちぎ かおる)

博士(障害科学)。専門は肢体不自由教育、重複障害教育。

2008年に本学に就任。主な研究領域は、特別支援学校におけるカリキュラム開発。

## 特別支援教育とは？

特別支援教育概論は、特別支援教育教員養成課程の学生が入学して最初に受ける授業です。1年生の中には、特別支援教育を小中学校の教育と全く別の教育としてイメージしている学生も少なくありません。しかし、実際はそうではありません。現在、障害のある子どもたちは、小中学校等の通常学級や特別支援学級、特別支援学校のいずれかに在籍しています。障害のない子どもと同じ各教科を学ぶ子どもたちもいます。知的障害を伴う子どもたちも、小中学校等の各教科と目標や内容は異なりますが、国語や算数等の各教科を学んでいます。では、特別支援教育を担う教師に必要な視点はどのような視点でしょうか。

## 子どもが示す 困難の背景を理解する

特別支援教育を担う教師には、障害のある子どもの学習や生活上の困難を把握し、なぜ

そのような困難を示すのか、その背景を理解する視点が求められます。

そこで本授業では、障害が子どもの発達に及ぼす影響や、障害のある子どもが各教科を学ぶ際に想定される困難と目標を達成するために必要な手だてについて、視覚障害や聴覚障害、肢体不自由等、多様な障害に焦点を当てながら考えます。また、障害による学習や生活上の困難を改善するために行う「自立活動」の指導について学びます。



本授業の受講者には、幼稚園や小中学校の教師を目指す他課程の学生も多くいます。

一人一人が特別支援教育を推進する教師になってほしいと願っています。



今号の研究室紹介では、本年4月に実務家教員(学校現場からの教員)として赴任された、教職実践講座の3名の先生方が担当されるそれぞれのコースについて紹介いたします。

## 優れた指導力と学級経営力を兼ね備えた 即戦力を育てる

### 教職実践講座「教育実践力開発コース」 青木 哲也 教授

本年度4月から実務家教員として、学校現場からきました青木哲也といいます。教育実践力開発コースは、教員免許状を有している大学卒業者、あるいは社会人等の方たちが入学してきます。現在の大学4年生が主な入学の対象になります。現在、大学院1年生12名、大学院2年生8名が在籍しています。コースの指導スタッフは、6名で、研究者教員3名、実務家教員3名で指導しています。

本コースは、学校での実際の場面を視野に入れた講義形式の教材開発、具体的な学校場面を想定した演習、学校現場での実習等を通して、「理論と実践の融合」を具体化し、明日の教育現場に立ち、すぐにでも学校現場で活躍できる人材育成を目指しています。また、教育を俯瞰し、将来は学校の中核に育ってもらうことを願って指導しています。

日常の授業・実習だけでなく、教員採用試験も視野に入れ、厳しい中にも、暖か味のある指導を進めています。



## 生徒指導及び特別支援教育の専門性を高める

### 教職実践講座「生徒指導・教育相談リーダーコース」 脇田 哲郎 教授

本年4月から、実務家教員(学校現場からの教員)として参りました脇田哲郎です。

生徒指導・教育相談リーダーコースは、小学校または中学校の一種の免許状を有し、原則として10年以上の教職経験(常勤講師を含む。)のある現職教員または社会人を対象に開設されています。現在、研究者教員3名と実務家教員1名がコース担当者として指導にあたっています。

本コースは、学校全体の生徒指導や教育相談、特別支援教育、キャリア教育の取り組みをリードし、学校内外の関係者や機関をコーディネートできる力、多様なニーズをもつ子供に的確に対応できる力を養うこと目的として研修しています。また、学校心理士の資格を取得することもでき、すべての子供たちが学校生活に適應し、よりよく成長できるようにする専門的な知識と技能も身に付けることができます。



## 学校・地域の中核となる スクールリーダーを育成する

### 教職実践講座「学校運営リーダーコース」 森 保之 教授

学校運営リーダーコース主任の実務家教員の森保之と申します。本コースの院生は、小学校又は中学校の教諭一種免許状をもっている教職経験10年以上の現職教員を対象としています。現在、M1院生が4名、M2院生が5名、計9名が在籍しています。担当指導教員は、私を含めて4名います。研究者教員1名と実務家教員3名の計4名でチームを組んで9名の院生を指導しています。

本リーダーコースでは、教職経験と実践の指導力を客観的に振り返り、若い教員や同僚教員を指導できる力を養成します。その上で、それらの力を学校改善や学校組織力の開発につなげていくことができる学校経営的視点を持った将来の学校リーダーの養成をめざしています。

現職教員の院生にとって教職大学院は、それまでの教職経験で学んだ実践の「知」と「技」を客観化・相対化して分析・考察する場となっています。また、勤務校における教育実践上の課題・テーマを考察し、新しい実践の「知」と「技」を開発する場でもあります。その取り組みの中では、多様な学校の実践に触れ、人々と交流することで、教師としての幅広い視野を獲得することができます。





## 女子ハンドボール部

## Handball Club

福岡教育大学女子ハンドボール部は、昭和42年の創部以来、全国大会3位3回、西日本大会優勝1回、準優勝7回、九州リーグ優勝26回を誇る学生ハンドボール界の強豪チームの一つです。OGには日本代表選手や日本リーグ選手も多く含まれ、現在のチームにもジュニア日本代表選手が2名います。

現在部員は、4年生4名、3年生2名の計6名です。ハンドボールは7人制ですので、1名不足している状況です。春の九州学生リーグは、ラクロス部員や一時的な協力部員(助っ人)6名の協力で、昨年同様に優勝を目指して戦いました。協力部員の皆さんに精一杯のご協力をいただきましたが、残念ながら4勝1分けで優勝チームと引き分け、得失点差により、優勝を逃してしまいました。

今シーズンは、協力部員の皆さんのご協力をいただきながら、8月の西日本大会、9月の九州学生秋リーグ、11月の全国大会において上位進出を果たし、6名でも「福岡教育大学此処にあり」をハンドボール界に示したいと思っています。ゲームセンスに溢れたトップレベルチームの練習と試合に興味ある方は、月曜・木曜の20時と水曜17時に体育館を覗いてみてください。



中等教育教員養成課程保健体育専攻 3年 吉田 桃歌

## 国際交流サークル「KIZUNA」

こんにちは。私たち国際交流サークル KIZUNAは、日本人学生30名程度、留学生15名程度で週に1回活動しています。KIZUNAの名前の由来は、“絆”という言葉からももちろんですが、『君と、ずっと、仲間』の頭文字をとって『KIZUNA』という名前をつけました。日本に来た留学生とは、帰国した後の現在でも繋がっています。

そんなKIZUNAの日々の活動内容としては、毎週水曜日に様々なアクティビティを通して、留学生との交流を図っています。例えば、日本人学生が日本を紹介することにより日本のことを一緒に学んだり、留学生による母国の紹介により母国について学んだりしています。他にも、来日した留学生を歓迎する「Welcomeパーティ」や帰国する留学生を見送る「さよならパーティ」、季節に合わせて「ハロウィンパーティ」に「クリスマスパーティ」などの様々なパーティや、スポーツ大会なども行っています。大学祭では、毎年、韓国のお菓子である「ホットク」の販売をするなど、KIZUNAならではの活動も多々行っています。また、宗像市役所と協力し、宗像市内で開催される行事にも多数参加させていただいています。



中等教育教員養成課程英語専攻 2年 廣門 萌



## 学校、教育委員会等との連携

福岡教育大学では、学校、教育委員会及びその他の機関・団体との連携事業や共同研究を推進し、その成果を積極的に社会に還元します。

連載第11回

# 講師等のための 授業力アップ講座

## はじめに

福岡教育大学は教員養成の九州の拠点大学として、教員の養成はもちろん、現職教員の生涯を通じての資質向上に寄与するため、大学が有する教育資源を広く社会に還元し、学校を含めた地域の教育力向上に積極的に貢献しています。

今回の「講師等授業力アップ講座」はその一環として、県教育委員会との共催、県市町村教育委員会連絡協議会の後援をいただき、県下で初めて実施するものです。日頃、研修機会が少ない講師等（小・中・特別支援学校に勤務する講師、助教諭、非常勤講師及び若年教員）を対象に、教科に関する基礎的知識・技能の習得と実践的指導力の向上を図ることにより、学校における学習指導の改善・充実に資するため、県教育庁筑豊教育事務所並びに京築教育事務所のご支援・ご協力を得て実施します。

筑豊教育事務所は小学校国語と算数、中学校理科を、京築教育事務所は小学校国語と算数、中学校国語と社会を実施し、どちらも募集定員は小学校50名程度、中学校30名程度、6月から8月までの期間で3回の講座を実施します。2学期以降の授業構想や指導案づくりを通して、講師相互の横の繋がりと教員としての授業力アップに資することができればと願っています。

## 講座の始動

筑豊・京築教育事務所それぞれの初回講座実施日に、開会式が実施されました。佐々木副学長の挨拶に続いて行われた主幹指導主事による講話では、福岡県の教育を取り巻く現状と課題等について、説明がありました。

受講生に受講のきっかけや初回講座の感想を尋ねたところ、「自身のスキルアップのために受講を希望した。授業の組み立て方などを体系立てて教えてもらえるので参考になる。」「校長（教頭）から受講をすすめられた。研修の一環として受講できるので有難い。」との意見が寄せられました。



開会挨拶する佐々木副学長（京築教育事務所）



主幹指導主事による講話（筑豊教育事務所）



中学校理科・第2回講座の様子（赤池中学校）



# 今年度の開講計画

## 筑豊教育事務所 ※( )内は担当教員

	日時	小学校国語	小学校算数	中学校理科
第1回	6月 2日(火)	(国語教育講座) 河野智文教授	(数学教育講座) 今井一仁准教授	理科教育講座 森藤義孝教授(第1・3回) 坂本憲明教授(第2回) 甲斐初美准教授(第3回)
第2回	6月23日(火)			
第3回	8月 7日(金)			

※中学校理科の第2回は、田川郡福智町赤池中学校にて実施

## 京築教育事務所 ※( )内は担当教員

	国語	算数
【小学校】	(国語教育講座) 山元悦子教授	(数学教育講座) 今井一仁准教授
第1回	5月27日(水)	5月29日(金)
第2回	6月15日(月)	6月12日(金)
第3回	8月 7日(金)	8月28日(金)

	国語	社会
【中学校】	(教職実践講座) 若木常佳教授	(社会科教育講座) 豊嶋啓司教授
第1回	5月27日(水)	5月28日(木)
第2回	6月11日(木)	6月11日(木)
第3回	8月 7日(金)	8月28日(金)

### 【担当教員より】

多くの教科を担当する小学校教員にとって、特定の教科・領域を基礎から深く理解する機会はそう多くありません。教育事務所指導主事の先生と打ち合わせを重ねながら、明日からの授業改善へ具体的につなげていくことを意識して、研修内容を構成しました。2学期以降の担当教材を各自持ち寄っていただいての演習や協議も取り入れています。研修を通して、受講者の先生方のつながりが生まれることにも期待しています。

(筑豊教育事務所・小学校国語担当 河野智文)



小学校国語・第2回講座の様子(筑豊教育事務所)

### まとめ

今回、初めて本学と福岡県教育委員会との共催により、講師・若年教員を対象とする講座を開講することができました。講師・若年教員の授業力の向上は、県内の学力向上に向けた取り組みの一つとして重要であると考えています。

本年度は筑豊教育事務所と京築教育事務所の2箇所での開設となりますが、これまで本学との組織的連携が十分ではなかった地区との連携基盤を確立することができました。本講座がきっかけとなり、当該地区の教科等研究会や校内研修等が活性化することを期待しています。

今後は、本講座で得られた成果と県内のニーズを踏まえて他地区へ展開し、広域拠点大学としての戦略的連携事業を充実させたいと考えています。



# O B ★ O G



宗像市立赤間小学校  
さいとう もえ  
教諭 齊藤 萌さん

平成25年3月

中等教育教員養成課程保健体育専攻卒業



小学校教師となり、3年目になりました。1年目は、右も左も分からない状態で日々もがいていました。しかし、まわりの先生方の心強いバックアップに支えられたり、子どもたちの笑顔に癒されたりしながら、今、この3年目を迎えることができます。学ぶ姿勢を忘れず、これからも子どもたちと日々成長していきたいと思えます。

## 子どもたちにパワーをもらっています

教師として過ごす日々の中で、子どもたちの成長を身近に感じられた時というのは、本当に嬉しい瞬間です。この喜びを感じることができるのは、教師という仕事の魅力だと思います。出来なかったことが少しでも出来るようになったり、友達に優しく接することができたり、行事や苦手なことに一生懸命に取り組んだり…そんな時の子どもたちは、とても輝いており、素敵な笑顔を見せてくれます。そんな子どもたちを見ると、もっともっと輝く姿や笑顔を見たいという思いを抱きます。同時に、自分自身も教師としてしっかりと成長していかなければならないという思いも強く感じています。子どもたちが教室を後にしても仕事はたくさんありますが、明日の子どもたちを想像すると、自然と力が入るものです。子どもたちからは、毎日本当にたくさんのパワーをもらっています。

## 仲間・チーム力の大切さを実感しています

大学時代は、女子バスケットボール部に所属していましたが、その中で、仲間の大切さ、チーム力の大切さを強く感じていました。教師になって3年目…それは仕事においても同じことなのだと実感しています。現在、大学から一番近い赤間小学校に勤務していますが、教師間のチーム力を強く感じています。分からないことは丁寧に教えてくれたり、何かあれば一緒になって解決に向かおうとしてくれたりと、本当に心強いバックアップに支えられています。放課後に、一日の出来事や子どもの可愛かったところを話す時間も、毎日の楽しみとなっています。



大学時代：中等教育教員養成課程保健体育専攻の仲間と



大学時代：バスケットボール部の仲間と





福岡教育大学附属小倉中学校

かね やす あき こ

教諭 兼安 章子さん

平成19年3月

中等教育教員養成課程家庭専攻卒業

平成22年3月 教育学研究科家政教育専攻修了



現在、私は目の前の子どもと、その未来のために、授業で成長した子どもの姿に出会ったり、子どもと一緒に行事に熱くなったり…忙しくも充実した毎日を過ごしています。

## 在学生の皆さんに今、頑張してほしいことを3つ伝えます

1点目は子どもとふれあう経験をしてほしいということです。ボランティア活動や、教育実習、何でも構いません。思い切り子どもとふれあい、名残惜しい別れを経験して下さい。

2点目は教員採用試験の勉強に本気で取り組んでほしいということです。新卒で不利なことは全くありません。むしろ、筆記試験の勉強ができる時間が確保でき、有利なくらいです。キャリア支援センターも利用して本気で勉強して下さい。このときに、1点目の経験が勉強の意欲にもなると思います。

3点目は大学の友人を大切にしてほしいということです。今でも大学で出会った友人に支えられています。もちろん、後輩や先輩方もいらっしゃいます。多くは教師になり、各地で活躍しています。仕事で悩んだときに相談に乗ってくれたり、こんな教材があるよと声をかけてくれたり…頼もしい存在です。同じ学び舎で苦楽を共にした仲間がいることは、教師になってからのかけがえのない財産になると思います。

卒業後にもたくさんの先輩に出会いました。本当によくしてくださる先輩方が各地でみなさんを待っています。福岡教育大学の学生として誇りを持ち、共に子どもたちのために一生懸命になりましょう。現場でお会いできる日を楽しみにしています。



授業風景



大学時代一中等教員養成課程家庭専攻の友人との卒業旅行

# 教材開発スタジオが完成しました

福岡教育大学では、様々な映像・音声教材の製作が出来る「教材開発スタジオ」を整備いたしました。

この「教材開発スタジオ」は、高い教材開発能力と課題解決能力を実践的に身に付けることを目的として、文部科学省の大学教育研究基盤強化促進費を受け、大学(宗像地区)と附属学校(小倉地区、福岡地区、久留米地区)を結ぶ「グローバルな視点を培う人材育成スペース」と称した能動的学修環境整備事業の一貫として実施いたしました「アクティブラーニングスペース」、「教材開発スペース」「高速無線LAN環境」の3事業のうち、「教材開発スペース」事業として整備されたものです。

本スタジオは、学生が映像・音声教材を簡易な操作で製作することができるだけでなく、製作した映像・音声教材を附属学校で検証する教材開発サイクルの中心としての機能を担い、また、アクティブラーニングを取り入れた授業スペースとしても活用でき、主に小学校英語教科に対応した教材の開発や、教材の発進力、電子黒板を想定した授業実践力の養いが期待されます。このような実践的教育を通して、さまざまな視点から情報発信のメディアリテラシーを学ぶことができるなど、グローバル化に対応した教員養成にも役立つものです。

その使用にあたっては、現在は教育支援課において、希望する教員へ随時貸し出しを行っています。

福岡教育大学では、今後も更なる教員養成機能の充実、教育の発展と質の向上を図るとともに、学びの楽しさ、魅力ある発見や発想のできる教育者を育成する教育環境を創出することを目指します。



教材開発スタジオのお披露目会の様子



教材開発スタジオ内の防音ブース

## 表紙モデルの福教大生☆



あおき たつや  
**青木 達也さん**  
初等教育教員養成課程  
社会科選修1年

今号の表紙撮影では、今年度4月より本格始動した英語習得院(ELI)の授業を受講している青木達也さんに登場いただきました。将来教師を志して今年度入学したばかりのフレッシュな1年生です!

青木さんは、授業の空き時間を利用して週に2回、ELIの授業を受講しています。学年が進むと、教育実習や教員採用試験の勉強などで忙しくなることを想定し、少しでも時間のあまる1年生のうちから受講を始めた青木さん。所属するサッカー部のハードな練習をこなしながら、学業と課外活動を両立させています。今年の8月にはマレーシアのクアラルンプールでの短期研修へも応募する予定です。



撮影後のインタビュー取材の中で、「英語力は様々な場面で将来必ず必要になります。自分の英語力をさらに高めていきたいです。」と笑顔で語ってくれました。



### JOYAMA通信32号の訂正とお詫びについて

JOYAMA通信32号の7ページに掲載した、卒業生の梶原悠さんのお名前に誤りがございましたので訂正し、お詫び申し上げます。

誤 梶原 遙さん 正 梶原 悠さん



## 健康科学センター

MESSAGE No.109 2015春号

今回の内容は、「赴任の挨拶」、「穴ぼこを埋める生き方」、「自分とは」、「健康科学センター、私の出会いと別れ」、「気持ちや考えを伝える技術」、「催眠療法」、「気持ちが落ち込みがちなあなたに」、「耳の話」、「目を大切に」など盛りだくさんです。また表紙は初等美術専攻の松尾歩美さんのデザインです。是非手にとってご覧ください。



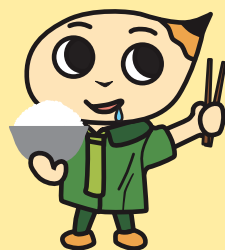
健康科学センターHP  
<http://ww1.fukuoka-edu.ac.jp/~hokenctr/index.html>

## 福岡教育大学後援会

“朝ごはんを食べよう!”キャンペーンを行いました

昨年度好評だった“朝ごはんを食べよう!”キャンペーンを大学、大学生協と一緒に、今年度の第1回を6月3日～6月9日まで行いました。第2回を秋頃、第3回を冬頃に予定しています。

この機会に食生活を見直してみませんか?



後援会事務局  
 TEL・FAX: 0940-33-8070  
 e-mail: kouenkai@eos.ocn.ne.jp

## 同窓会 城山会

27年度の事業予定

- 4月 第40回城山会定期総会終了(約140名参加)
- 5月 役員会、幹事会、支会幹事長会
- 6月 組織部会
- 7月 事業部会、広報部会
- 8月 2日(日) 研修会(事業部担当、担当地区:福岡市・福岡地区)
- 9月 組織部会
- 10月10日(土) 新卒・若手会員情報交換会・ホームカミングデー(参加費無料、昼食付)  
 ※詳細決定後、各支会より連絡。多数のご参加お待ちしております。
- 10月～11月 拡大支会長会(地区別)
- 12月 大学支援委員会、組織部会
- 1月 役員会、会報46号発行
- 2月 支会長会、女性部会



同窓会城山会事務局  
 TEL・FAX: 0940-33-2211  
 e-mail: jouyamakai@able.ocn.ne.jp

第40回城山会定期総会

## 学生広報スタッフ大募集

大学や学生情報のアイデア提供、広報誌の取材・写真撮影、ポスター・ホームページのモデル、大学ホームページのモニター、制作への参加、その他大学の広報活動全般に関わってみませんか?  
 詳細は担当者までお気軽にお問い合わせください。

### ●応募方法等

メールで、本文に以下の3項目を記載の上、応募してください。

- 1.所属・学年
- 2.氏名(ふりがな)
- 3.連絡先(電話番号・e-mail)

受付後、こちらから連絡します。  
 なお、応募者多数の場合は、選考の上、結果を連絡します。

### ●応募先・問い合わせ先

経営政策課 梅田  
 TEL. 0940-35-1205  
 e-mail: kouhou@fukuoka-edu.ac.jp



福岡教育大学の魅力を高校生・受験生をはじめ、地域の皆さまに知ってもらうために、広報・広告活動にボランティアとして参加・協力してくれる福教大生を大募集!  
 みなさんの応募をお待ちしています!

# Joyama 通信 vol. 33



福岡教育大学  
イメージキャラクター  
フッキー

福岡教育大学広報誌第33号

2015年7月24日

編集発行: 国立大学法人 福岡教育大学  
経営政策課

〒811-4192 宗像市赤間文教町1-1

TEL.0940-35-1205

FAX.0940-35-1259

e-mail: kouhou@fukuoka-edu.ac.jp

ホームページ:

<http://www.fukuoka-edu.ac.jp/>



携帯電話サイト



Twitter



YouTube

## 編集後記

■ 本号の特集2では、官民協働海外留学支援制度～トビタテ!留学 JAPAN日本代表プログラム～に選出された2名の学生さんを紹介しました。学生のみなさん!みなさんの将来は可能性に満ちあふれています。学生時代にしかできない様々なことに挑戦し、視野を広げてください。福岡教育大学は、挑戦することをあきらめずに夢に向かって突き進む学生のみなさんを全力で応援いたします!

(広報編集部)

リサイクル適性 

この印刷物は、印刷用の紙へ  
リサイクルできます。